

歌が生まれる



校歌制作レポート 第14回



イラスト：山崎奈緒

まだまだ油断できない

前回レポートの時点で、締め切りまで47日。おお！余裕で早々に出来たではないか！と喜んでいいのか？というと、実はそうでもありません。

今、初稿を試演した動画を **Youtube** で視聴できるようになっているので、それを皆さんに聴いていただき、そのリアクション（感想や意見をお寄せいただける仕掛けになっています）をふまえて「これでいいのか？」を判断しなければなりません。その結果「こんなのじゃ嫌だ」という反応が大勢を占めた場合、初めからやり直さなければならない（細部まで造り込んでしまったので「ちょっとした手直し」は無理）ので、そのための期間を確保したのです。「嫌だ」の可能性（理由）としては…

- 1) 投稿者より ➡ 投稿した言葉が見当たらないから
- 2) 不特定多数より ➡ 校歌っぽくないから
- 3) 学長より ➡ 「六甲おろし」のようではないから

…などが考えられますが、ビクビクしていても仕方がないので、今回から数回、のんびりと雑談風にここまでの作業を振り返りつつ、不測の事態に備えようと思います。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

前校歌のことなど

2024年度まで歌われていた前校歌。12年前、本学に赴任早々初めてこの歌を聴いた時、私の脳裏に即座に橋幸夫・吉永小百合の顔が思い浮かびました。「あ、これ、アレじゃないか!」。「アレ」というのは、その2人のデュエットで大ヒットした **いつでも夢を** という歌です。で、学校案内の最終ページに載っている楽譜を見ると、なんと!作曲者は同じ吉田正氏。んんんん… 作者特有のテイストというのはジャンルが違っても出てしまうものなのですね。私の他の曲を知っている人が、今回の新校歌を私の作と知らずに聴いて「!?’となることもあるのでしょうか? あったらコワイですね....。

前校歌は、在任中何度も学生に指導したり歌ったりしているので熟知している。だから当然、今回自分が「後継歌」を作るにあたって意識しないわけにはいきません。拙作にある「つながる思いは時を超えて出会う」は、第6回レポートで触れた前校歌冒頭の一節「明日が遠い思い出になる日も・世界のどこかで生きていて・希望を星につないで学んだ友を呼ぼう」という美しいイメージへのオマージュ、という意を含んでの選択です。また、前校歌には「山鳩カッコウ一緒に歌おう」という一節があり、拙作には「木々の梢に・雲の行方に〜〜問う」がある。これは意識したつもりではないけれど、自然へのよびかけという点で繋がっていると言え言えそうですね。

意識しようとしまいと「知っている」という事実は消しようがなく、忘れていたとしても脳ミソの表層に出てこないだけで、どこかに記憶として仕舞い込まれているはず。それがどんな形で不意に出てくるか、これはコントロールできないのではないのでしょうか? あ、今気がつきましたが、「学びの海に=UEDA」というメロディは西部劇 **荒野の七人** テーマ曲の冒頭にそっくりだ。これはもしや、「学海 → 安楽寺 → 僧侶 → スキンヘッド → ユル・ブリンナー」という連想によるもの…ではない、と断言できるか? と訊かれれば、私は黙るしかない。否定できる証拠はないのです。

などなど、とりとめない雑観が今後しばらく続きそうです。今回挙げたい **いつでも夢を** と **荒野の七人** の音源、**前校歌の楽譜** には以下からアクセスできます。ご興味があればどうぞ。それではまた。

